

県学校新聞コンクール

美方高2年ぶり最優秀

コロナ禍でも話題幅広く



県内高校の新聞部が活動の成果を競う「第55回県学校新聞コンクール」(福井新聞社、県高文連新聞部会共催)の審査会が24日、福井新聞社で開かれた。最優

秀賞に、新型コロナウイルス禍での教職員のマスク作りや退職する校務員へのインタビューなど、幅広い話題を取り上げた美方高新聞部が2年ぶりに選ばれた。

高校生の新聞制作の意欲や技術力を高めようと、毎年行っている。今年は6校から応募があり、同部会事務局長の中山孝士、鯖江高教諭、福井新聞社の川塚康弘編集局長ら4人が審査。昨年11月

最優秀賞に輝いた美方高新聞部の紙面



から1年間に発行した新聞の▽記事の充実度▽発行頻度▽レイアウトの見やすさなどを基準に選考した。美方高は定期発行3号に加え、休校期間中にウェブ

上で掲載した号外など計12号を制作した。休校中は、退職する校務員へのインタビューや仕事紹介、教職員のマスク作りの様子などタイムリーな話題を掲載。休

校明けは、動画による新入生オリエンテーションやビデオ会議アプリ「Zoom」を使った生徒会活動など、コロナ禍での学校生活の変化を紹介した。生徒に行った部活動や制服についてのアンケートは、集計結果をグラフにするなどして分かりやすくまとめた。

優秀賞は初応募ながら読み応えのある紙面を作った北陸高、奨励賞は金津高が受賞。特別賞に藤島高、努力賞に武生商・武生商工高が選ばれた。

表彰式は12月7日に福井新聞社で行われる。新聞は同8〜11日に本社エントランスホールで展示する。(田中奈々子)